

令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

文部科学省「教育課程特例校」制度に基づく教育の実施状況

令和 7 年 7 月

学校法人細田学園は、中学校、高等学校とも令和 4 年 3 月 8 日付で文部科学省により「教育課程特例校」に指定され、令和 4 年度より計画に基づく教育を実施しています。

新たな教育プログラムを設置した趣旨

本校では 2013 年より、現実の社会課題を抽出して分析し、ビジネスの手法を用いて解決法を提案する独自の探究プログラム「リーダー教育」や「未来研究 (Think My Future)」を実施してきました。これらのプログラムで生徒が着目する社会課題は、科学・社会・生活基盤を扱う科目で言及される内容であることが多く、また、生徒が自ら発見した課題に取り組みながら、その過程で課題に関連する教科知識を学ぶことで、より本質的で実践的な知識を得ることがわかってきました。

そこで、これら科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめ、探究的な新設教科として扱うことで、生徒に主体的に学ぶ機会と、本質的で実践的な知識を得る機会を多く提供できると考えました。

そして、独自の探究プログラムを新しく教科化して取り組むことは、本校の基本方針である「絶対的な学力はもちろんのこと、社会との様々なかかわりの中で主体的に考え、行動できる生徒を育成する」決意の表明でもあります。

教育プログラムの概要

科学・社会・生活基盤を扱う科目を取りまとめて、探究的な新設教科「未来科」を新設し、独自の探究プログラム「FDC : Future Design and Creation」を行っています。独自の探究プログラム FDC は、

- ①社会課題を自ら抽出する、
 - ②ビジネス手法を用いながら社会課題を調査・分析する、
 - ③分析した課題について解決法を提案する、
 - ④学内外のファシリテータ監修のもとで課題解決に向けた提案を実践する、
 - ⑤実践の効果を評価し国内外に周知する、
- の一連の活動から成り、学年に応じた形式で継続的に実施しています。

教育プログラムの実施時数

①高等学校：設置・削減した教科及び単位数

(単位数)	設置した教科	削減した教科				
	未来	公民	理科	家庭	情報	総合的な探究の時間
高校 1 年	3	1	1			1
高校 2 年	3			1	1	1

②中学校：新設・削減した教科及び授業時数

(授業時数)	設置した教科	削減した教科		
	未来	社会	理科	特別活動
中学 2 年	105	35	35	35
中学 3 年	105	35	35	35

教育プログラムを受けた生徒数

令和 6 年度（令和 6 年 5 月 1 日時点）

①高等学校

		一貫部		高等部	
教科名	単位数	高校 1 年	高校 2 年	高校 1 年	高校 2 年
未来創造Ⅰ	3	29	—	—	—
未来創造Ⅱ	3	—	37	—	—
未来探究Ⅰ	3	—	—	319	—
未来探究Ⅱ	3	—	—	—	277

②中学校

教科名	授業時数	中学 2 年	中学 3 年
未来	105	51	59

年間活動スケジュール（令和 6 年度）

4 月日 全体キックオフ

4 月～5 月 全体講義（課題分析技法、調査法、発表法等）（削減教科の内容を含む）
ゼミ分けのための活動希望調査

6 月 ゼミ別の活動開始

7 月 中間発表 1

10 月 中間発表 2

11 月 全体講義（SDG s、格差問題、エネルギー問題、情報リテラシー等）
選考会＜予選＞

12 月 選考会＜最終＞

2 月 22 日 校内発表会「FDC Award 2025」保護者・一般公開あり

活動分野と参加した生徒数及びテーマ（抜粋）

生徒の興味分野ごとにわかれ、ゼミ形式で指導教員がつきます。生徒は 1～7 名のチームを編成し、チームごとに年次計画に基づいて活動を行いました

①高等学校

分野	活動人数 (人)		テーマ（一部のみ抜粋）
	高 1	高 2	
社会・ 地域	69	55	防犯ブザーの普及による犯罪防止 フェアトレードのチョコレートパンの商品化 子供向け料理体験会開催 大学留学生との交流イベント開催 江戸城の魅力を伝える 埼玉県地場食品の魅力発信
教育・ スポーツ	62	59	マナーについての啓発活動のためのゲーム作成 安価な野球グローブ開発 幼児向けダンス体験会の実施 ブラインドサッカーの普及と地域交流 幼稚園児むけ歴史教育紙芝居づくり アルティメットによる交流イベント開催
SDG s・ 環境	68	60	廃棄野菜再利用による紙製品開発 洋服のリサイクルシステムの確立 茶がらの性質を利用した食器用洗剤開発 河川の清掃活動 プラスチックごみ再利用によるキーホルダー作成 フラワーロス問題解決のための香水づくり
芸術・ 文学	55	43	音楽の翻訳による異文化交流 楽器の製作と演奏 仕掛け絵本の製作と読み聞かせ会の開催 メタバース空間での表現活動の促進 特撮映画の製作 過去の芸術家の好物を商品化販売化
工学・ ものづくり	65	60	AI の数学力を検証する 日本史を学べるゲーム制作 おいしい食べやすい非常食の開発 幼児用の枕制作 環境にやさしいバスボムづくり 野球上で販売するお弁当作り

②中学校

	人数	テーマ（抜粋）
2年生	51	志木周辺の昆虫分布図の作成 廃棄野菜を使ったスムージーづくり 地球温暖化を防ぐための美術活動 二酸化炭素排出を防ぐための技術考案 歴史を面白く感じてもらうためのアニメづくり 廃棄果物を用いたジャムづくり、販売 こどもの学習意欲をあげる取り組み こどもの遊び考案 読書量をふやすためのゲーム作り 植物由来の肉など代替食を使った料理 埼玉の魅力発信 着物の着付けを通して国際交流を行う 自転車と埼玉の魅力を広げる 二次創作MVで絵と音楽の良さを知ってもらう (ヘアアレンジで)子どもたちを笑顔に ドナーを身近に お菓子作りを通じた国際交流 廃棄野菜を使って絵の具を作る マジックでみんなを笑顔に ルービックキューブで思考力を高める
3年生	59	川でゴミ拾い 不満を解消する自動車デザイン 茶道を広める 動物が暮らしやすい社会をつくる 和菓子を若者に広める ゲーム大会でチャリティー活動する 楽天イーグルスに関する論文作成 捨てられてしまう野菜を減らす 動物が暮らしやすい社会をつくる 昆虫食を広める スポーツ観戦を広める 埼玉県の魅力を広める 女子サッカーを盛り上げる ヒーローを使ってリサイクルを促進 ブログを発信する 若者に和菓子を広める アニメで人を楽しませる 障がい者スポーツ

活動発表「FDC Award 2025」のようす

全校生徒のうち、優れた活動を行ったチームによるプレゼンテーションを3学期に行いました。優秀なチームを表彰するとともに、活動実績の共有をすることを目的としています。



令和6年度FDCの反省

令和6年度、FDCは3年目を迎え、社会貢献活動を念頭に置いた本活動は、一定の成果を上げるに至りました。50を超えるチームが、外部の企業や団体、教育機関などと連携し、商品開発や販売、研究をはじめイベントの開催、ボランティアなど多岐にわたる活動を行った。生徒が活動をする過程で、教員のみならず外部の方々と関わり、障壁とぶつかりながら目標に立ち向かう経験には、従来の教科学習では得られない深い学びがあったと言えます。

しかし、生徒の「主体性の伸長」という観点においては課題が残っています。在籍する多くの生徒にとって、「FDC」の活動は外発的動機づけによって行われるもので、一部の主体的な生徒に追従する形で作業をすすめたケースも見られました。教員によってなされる評価そのものを動機に活動した生徒が少なからずいたことも事実です。その活動において表面化される、いわゆる実績やコンテストの結果は、定量的な「成果」であるが、本校が期待する個々の生徒の「成長」とはずれが生じてしまったとも言えます。

【令和7年度以降の目標と展望】

本校における短期的な目標は生徒の「意志」の醸成です。生徒が自身の興味や進路、自

らの望む生き方と向き合い、与えられた探究学習の時間を自らデザインする能力を育成することを目指します。いま何が必要であり、どのような行動を起こすべきであるか、自身に問い、行動を起こすことを生徒に求めたいと考えています。個々の生徒が外的な評価にとらわれず自己の生と向き合い、言語化すること、活動につなげることが目標です。

中長期的には、

- ①活動が生徒の進路選択に資するものとなること
- ②教科学習における教科横断的な視点を育て、学習の内発的動機づけとなること
- ③地域社会や大学、企業との連携を強化し、実社会と結びついた課題に取り組む機会となること

以上の実現のために、教員に対しては、探究学習のファシリテーターとしての役割を果たせるよう、指導力向上のための研修や校内外での実践交流を継続的に実施する必要があると考えています。本学の「未来科」が単なるスキル習得ではなく、生き方そのものを学ぶ営みとなることを目指します。